HANA

すべての人がアートを通じて自由に自分を表現したり、互いの感性を交感することができるコミュニティ・アートセンターです。障害のある人たちが個性をいかしながらビジュアルアーツやパフォーミングアーツに取り組むスタジオ、今を生きる人たちの表現を紹介するギャラリー、コミュニケーションの場としてのカフェ＆ショップ、アートの可能性について探求するインフォメーションセンターやミーティングルームがあります。

写真：衣笠名津美

社会福祉法人わたぼうしの会たんぽぽの家アートセンターHANA
（生活介護事業：30名 / 就労継続支援B型：10名）

所在地：〒630-8044　奈良市六条西3-25-4
営業日：火曜日～土曜日　10：00～17：00

| アトリエ - atelier

テキスタイル - textile

| 陶芸 - ceramic

パフォーマンス - performance

ダンス - 身体表現

語り

演劇的ワークショップ

コミュニケーション - communication

ROKUJOYAMA CAFE
六条山カフェ

地域の人も利用できるカフェ
サロンや貸し館、展覧会などを行う

コミュニティカレッジ - 余暇 / 学び

楽しみや学びを「生き方の幅を広げるもの」ととらえ、多様なプログラムを展開

ネイルプログラム

好きなものくらぶ

アレンジフラワー

ギャラリー - gallery

国内外で活動するアーティストを障害のあるなしに関わらず紹介するギャラリー

障害者アートの公募展「かんでんコラボアート」の巡回展の会場としても使用
※主催：関西電力

外部の作家や団体を招いたWSや公演

全国にある施設の商品を販売する展示会

グッズ - goods

アートグッズ

アート作品を使ったオリジナルグッズの販売

手ぬぐい / クリアケース / シルクスクリーンTシャツ

複製画 / キーホルダー / ポストカード

画集 / 缶バッチ / マグネット

土鈴「厄除鬼」/ 転写陶器

陶芸プログラムで製造している陶器の商品で、製造から販売までをメンバーが中心に行なっている

土鈴「厄除鬼」

メンバーのイラストを陶器に転写

手織り / テキスタイル

織りや布製品をつくるテキスタイルプログラムで、毎年秋に奈良町で展示販売会を行う

手織り展の展示風景

手織りグッズ

フェルトバック

刺繍の付け襟

デザイン使用

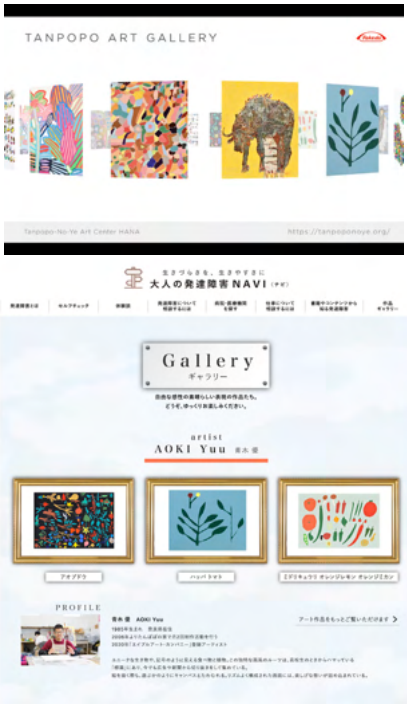
企業やクリエイターなどに、デザインとしてもアート作品が使用されている

中川政七商店「鹿コロコロ」

Né-Net「ワンピース」

TOYOTA「ラッピングカー」

西友「Tシャツ」



武田薬品　上「スクリーンセイバー」
下「サイトのデザイン等」

掲載 - publish

中学校美術教科書　発行｜光村図書

中学校美術教科書　発行｜開隆堂出版

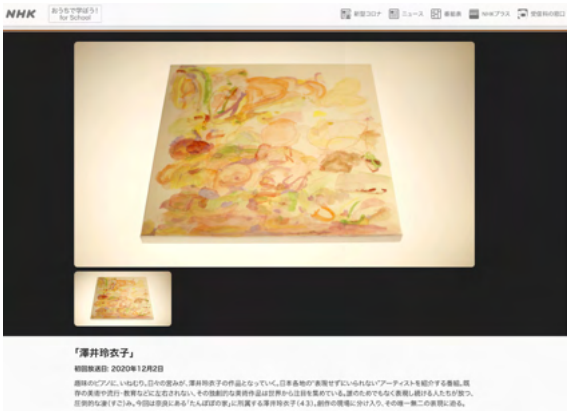
| 受賞 - award

「SHIFT Challenged Art」
大賞：中村真由美

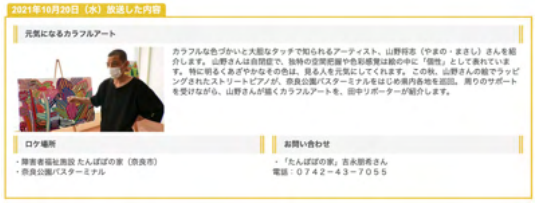
「かんでんコラボアート」
大賞：山村晃弘

「かんでんコラボアート」
審査員特別賞：十亀史子

| 取材 - coverage



NHK「no art, no life」 澤井玲衣子｜中村真由美



NHKなら「ならナビ」
山野将志

日本財団「DIVERSITY IN THE ARTS」
澤井玲衣子｜中村真由美｜宿利真希

アーティスト - artist

山野 将志
yamano masashi

1977年生まれ　奈良県在住
1995年よりたんぽぽの家で活動をはじめる

植物や動物・昆虫などの生命と対話するように描く。森や空などの自然を全身で感じ取り、力強い線と豊かな色彩を重ねていく。お出かけすること、人にしゃべりかけること、ご飯を食べに行くこと…。すべてが自分を表現する大切なものとしてつながっている。2006年にオーストラリア、2009年に中国・上海など、海外での作品発表、創作活動を体験した。

〈個展〉
2011年　「ヨリコレミドリ　山野将志展」（大阪／髙島屋大阪店・ギャラリーNEXT）
2018年　「山野将志個展＂森羅万象＂」
　　（鳥取／くらよしアートミュージアム無心、とりぎん文化会館・山陰合同銀行ギャラリー）
2019年　「山野将志展」（東京／松坂屋上野店本館7階・上野が、すき。ギャラリー）

〈グループ展〉
2012年　「違って独特」（韓国／京畿近代美術館）
2016年　「TURNフェス」（東京／東京都美術館）
2019年　「Artists〜在り続ける表現者たち」（東京／渋谷ヒカリエ8階MADO）
2021年　「いきいきと解き放つ命の輝き」（徳島／徳島県立近代美術館）

〈作品使用〉
2018年　壁画プリント（株式会社アムラックトヨタ）
　　タンブラー（公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会）
2020年　ウィンドウラッピング（トヨタ会館）

〈パブリックコレクション〉
2013年　株式会社リブドゥコーポレーション新設工場へエントランス巨大壁画（愛媛）
2019年　桃山学院大学の校舎への巨大絵画
　　（企画名：ART GUSH IZYMIU CITY／主催：和泉市／企画：株式会社一八八）
2020年　コンベンションセンター奈良のエントランスに飾る絵画作品（奈良）

〈アートレンタル〉
2020年　ロート製薬（大阪、京都、三重）

「オーストラリアの島」　アクリル、紙、パネル／970×1620

「ファソンの絵」
アクリル、紙、パネル／727×1167

「海にうかぶ島」
アクリル、紙、パネル／1167×910

「お水のんでるラクダさんの絵」
アクリル、紙、パネル／728×1030

中村 真由美
nakamura mayumi

1985 年生まれ　奈良県在住
2004 年よりたんぽぽの家で活動をはじめる

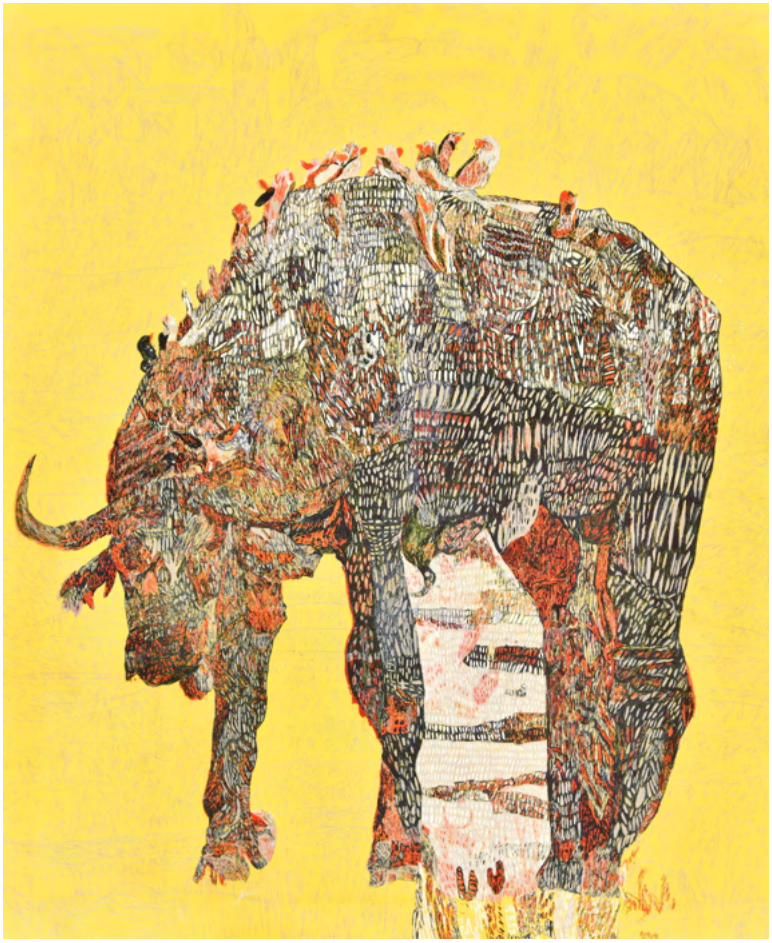
生活の中でなにごとにも素直でまっすぐにまい進する様子が、画面に向かうと自分の目で捉えたものを強い筆跡で描きあげることに代わる。動物や人物のイラストを描いてきたが、近年〝ハリポテ（張り子）〟制作にとりくむようになる。自分の思いを独自の表情や人の口まねで表現したり、小さないたずらを楽しんだりするおちゃめな一面も。そんな毎日の出来事を、幼いころから絵日記につづっている。

〈個展〉
2016 年　「中村真由美巡回個展＂平行するスタンダード＂」
　　（鳥取／くらよしアートミュージアム無心、米子コンベンションセンター、とりぎん文化会館）
　　「エイブル・アート・アワード＂中村真由美 展＂」（東京／ galleria grafica bis）
2020 年　「中村真由美展」（東京／松坂屋上野店本館 7 階・上野が、すき。ギャラリー）

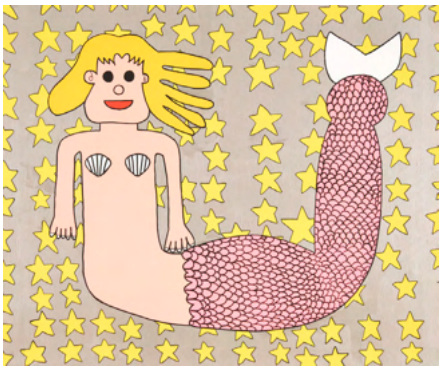
〈グループ展〉
2012 年　「違って独特」（韓国／京畿近代美術館）
2016 年　「TURN フェス」（東京／東京都美術館）
2017 年　「3331 Art Fair 2017」（東京／アーツ千代田 3331・3331GALLERY）
　　「OPEN KIT-CHEN」（京都／京都市立芸術大学 @KCUA）
2021 年　「いきいきと解き放つ命の輝き」（徳島／徳島県立近代美術館）

〈作品使用〉
2015 年　マスコット「鹿コロコロ」（株式会社中川政七商店）
　　シェルターからコックピットへ 飛び立つスキマの設計学（著：椿昇／産学社）
2016 年　奈良県立医科大学付属病院・小児病棟へのオブジェとマグネット
　　（企画：特定非営利活動法人アーツプロジェクト）
2018 年　タンブラー（公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会）
2019 年　洋服（ネ・ネット）
2020 年　パソコンのスクリーンセイバー画面（武田薬品）

〈パブリックコレクション〉
2019 年　桃山学院大学の校舎への巨大絵画
　　（企画名：ART GUSH IZYMIU CITY ／主催：和泉市／企画：株式会社一八八）



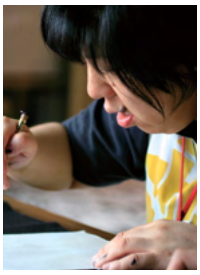
「水牛」
ペン、アクリル、キャンバス
803×652



「人魚」
アクリル、顔料マーカー、キャンバス
606×727

「馬」
油彩、キャンバス／1620×1363

「ハリポテ　シリーズ」
アクリル、顔料マーカー、紙



伊藤 樹里
ito juri

1977年生まれ　奈良県在住
1995年よりたんぽぽの家で活動をはじめる

一日4回のラジオ体操、紅茶づくり、「ニュース」かき、薬のカラ集め、鉛筆の削りカス集め、ラジオ深夜便を聞くこと…etc.、好きなこと・やりたいことが彼女の仕事である。そのうち、「ニュース」の文字を“筆”で書くことを発見してから、書が最も好きな仕事となった。毎日の気になるできごとや、覚えた自慢の漢字を、とめどなくしゃべりながら書く。
（書家 雅号：伊藤游兎／パフォーマー：JURIX）

〈個展〉
2012年　「存在と生活のアート“JURIX WORKS”」（東京／A/A ギャラリー）

〈グループ展〉
2011年　「ART PICNIC - 美術をたのしむ」（兵庫／芦屋市立美術博物館）
2012年　「違って独特」（韓国／京畿近代美術館）
2016年　「表現の森　- 協働としてのアート -」（群馬／アーツ前橋）
2017年　「OPEN KIT-CHEN」（京都／京都市立芸術大学 @KCUA）
「WSMA - 木造校舎現代美術館 - "GINGA"」（奈良／旧西小学校）
2020年　「であう、つたえるをかんがえる」（京都／Fab cafe 京都）
2021年　「いきいきと解き放つ命の輝き」（徳島／徳島県立近代美術館）

〈公演〉
2010年　奈良弁護士会との協働プロジェクト「憲法絵本と語りの会」にて語りを担当
※現在も継続して、日本各地の美術館や学校にて年間5〜10公演を行う
2012年　「鳥の演劇祭5 - カタルシス -」（鳥取／鳥の劇場）
2016年　「ACTION！」（大分／大分県立美術館）
「状況のアーキテクチャー"Tracing Memories: ラップ×介護×アート"」（京都／京都芸術センター）
2017年　「共創の音楽劇 鳥の宗教」（奈良／奈良市ならまちセンター市民ホール）

〈作品使用〉
2012年　服薬トレー「掌」（LLC オフィスカラム・兵庫医療大学）
2016年　学会プログラム、記念トート、オリジナルTシャツ各デザイン（同志社大学）
2019年　ハンカチ（公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会）

「JURIX WORKS」 20年以上集めている薬のカラ

「ラジオ体操パフォーマンス in 高知城」

「竹」
墨、和紙／450×350

「憲法絵本の語り」
協力：奈良弁護士会

武田 佳子
takeda atsuko

1957年生まれ　奈良県在住
1980年よりたんぽぽの家で活動をはじめる

猫を中心とした動物を愛し描いていたが、浮世絵と出会ったことで人間に惹かれ始める。瞬発的に生まれる力強い線は息の合うサポートがあってこそ。生命あるものを描き、自分の存在と重ねあわせることで、どう生きたいかを自らに問いつづけている。

〈個展〉
2005年　「千変万化～生色　武田佳子展」（奈良／アートセンターHANAギャラリー）

〈グループ展〉
2012年　「違って独特」（韓国／京畿近代美術館）
2014年　「花は咲きたい - 小松和子・武田佳子 二人展 -」
　　（大阪／高島屋大阪店・ギャラリーNEXT）
2017年　「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会 " HAPPY SPOT FUTURE " 」
　　（奈良／奈良県文化会館展示室）
2019年　「創造のいろは」（鳥取／米子市美術館）
　　「エイブル・アート展」（岐阜／可児市文化創造センター）
2020年　「騒ぐイマジネーション」（石川／めいてつ・エムザ 美術サロン）
2021年　「いきいきと解き放つ命の輝き」（徳島／徳島県立近代美術館）

〈作品使用〉
2008年　ＴＢＳドラマ「だいすき」スタジオセットへの作品使用
2017年　オリジナルリサイクルバッグ（株式会社髙島屋）
　　茶室の壁紙（京都市立芸術大学）

〈アートレンタル〉
2010年　蕎麦屋「案山棒」（静岡）
2014年　JOHNAN株式会社（京都）

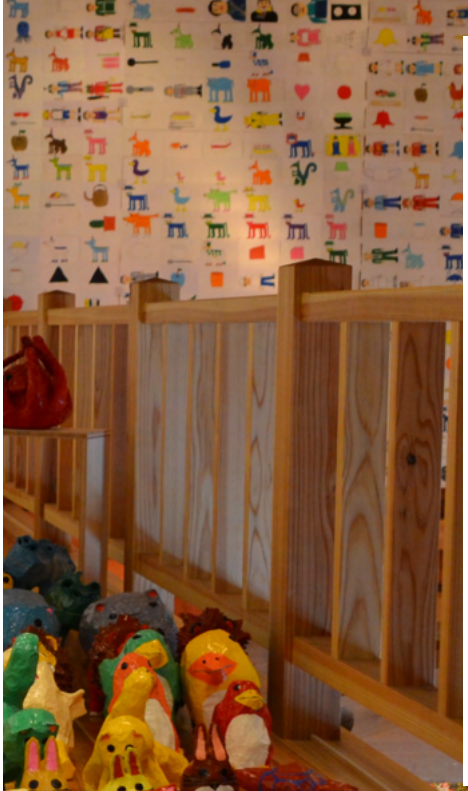
〈レジデンス〉
2006年　「オーストラリア交流プログラム」（豪日交流基金助成）

「女は愛嬌」
顔彩、墨、和紙／1400×590

「私は竹下しめじよ」
顔彩、墨、和紙／1400×700

「わぁーくちのなかがたまごでいっぱい」
顔彩、墨、和紙、パネル／520×770

「涙」
顔彩、墨、紙／785×545

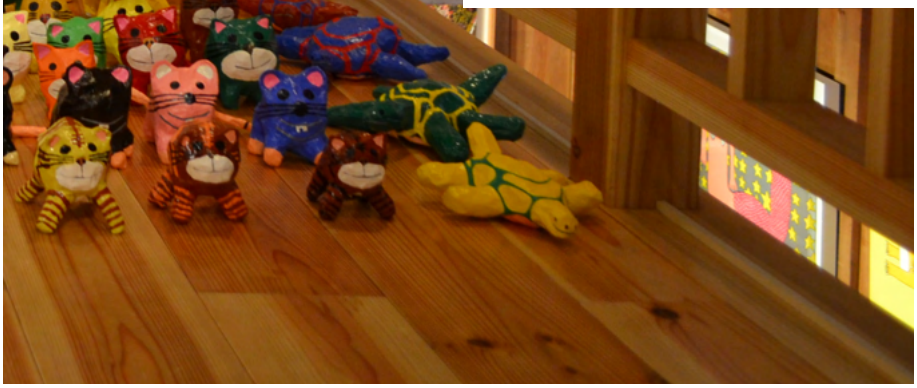


展覧会 - exhibition

県内外で様々な企画展を開催

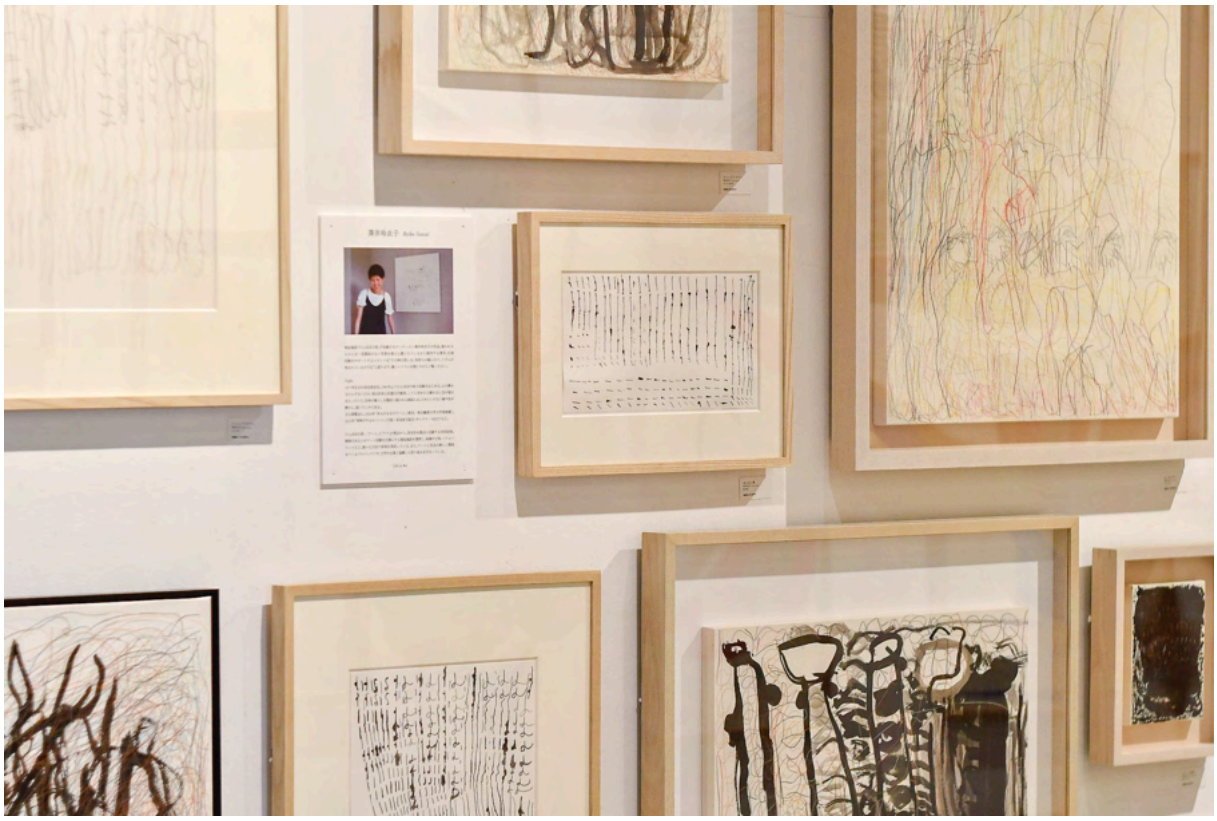
年間30展以上の展覧会に出展

海外の展覧会に出展



「人間の才能」
生みだすことと生きること

滋賀県立美術館／滋賀
2022年

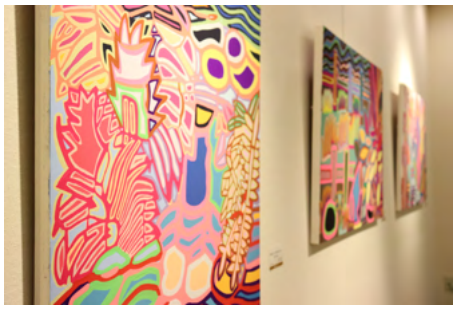


「Life in Art」

澤井玲衣子

グランフロント大阪 無印良品

大阪／2022年

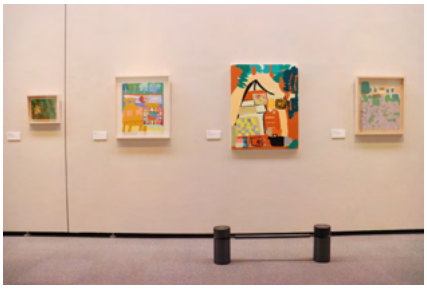


※2010年にもギャラリーオープンの初企画として同会場で開催

「色相世界」山野将志個展

髙島屋大阪店ギャラリーNEXT

大阪／2022年



いきいきと解き放つ命の輝き

徳島県立美術館／徳島
２０２１年

「ゆるやかにひろがる」

前田考美

itohen ／大阪

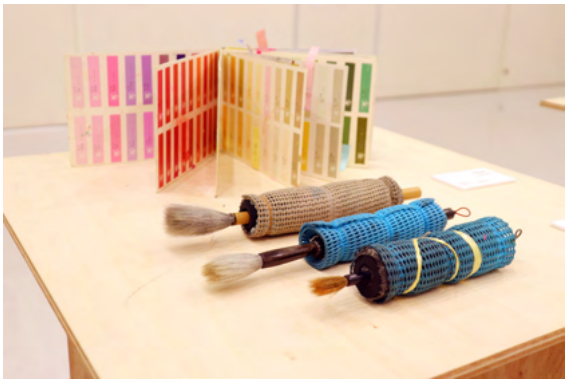
2020年

写真：鯵坂兼充

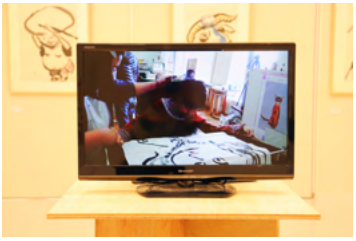
創造のいろは

米子市美術館／鳥取　　2019年

障害のある人が制作する際に使う、特製の筆などの道具を展示



車椅子の人が足で描くための靴と筆

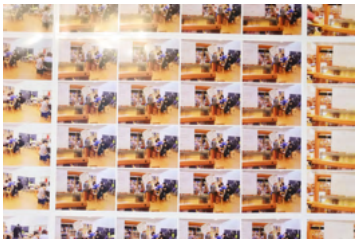


握力の弱い人が握りやすくなるために
工夫された筆と制作風景

福岡左知子個展「miamoo.」

maru room ／奈良

2019 年



福岡が制作する手織り部屋の風景と実際に使っている織り機と合わせて展示

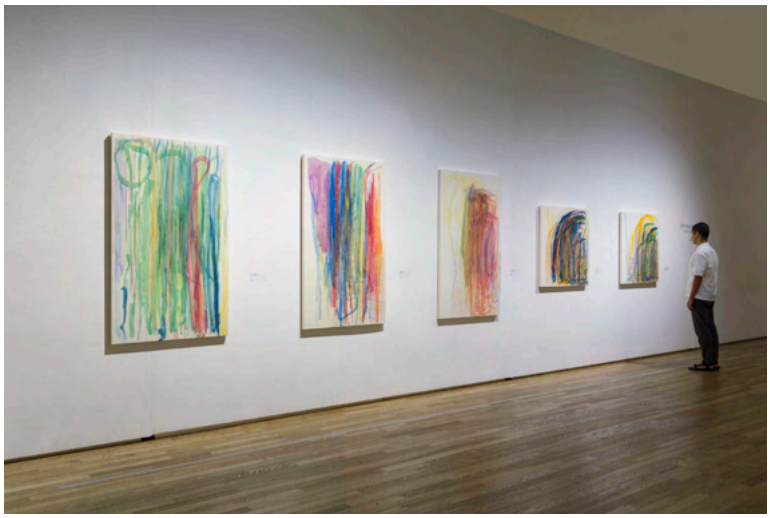
会期中には福岡の作品を身にまとい、チェキカメラで撮影する WS も開催

中村真由美巡回個展
「並行するスタンダード」

くらよしアートミュージアム無心
米子コンベンションセンター
とりぎん文化館
鳥取県内3会場の巡回／2016年

※コンベンションセンターの展示風景

作品出展



「あるがままのアート」
東京藝大学大学美術館
／東京
2020 年

「であう、つたえるを
かんがえる」
京都アートホステル
クマグスク
／京都
2020 年

「めぐるアートをめぐる」
京都場
／京都
2019 年

「MUSEUM OF TOGETHER SIRCUS」
渋谷ヒカリエ 8/COURT
／東京
2018 年

「学園前アートフェスタ」
大和文華館
／奈良
2018 年

「違って独特」
京畿近代美術館
／韓国・京畿道
2012 年

Welcome
NewSakuraColor

| プロジェクト - project

街を彩るパブリックアート

公共空間や企業へのアートレンタル

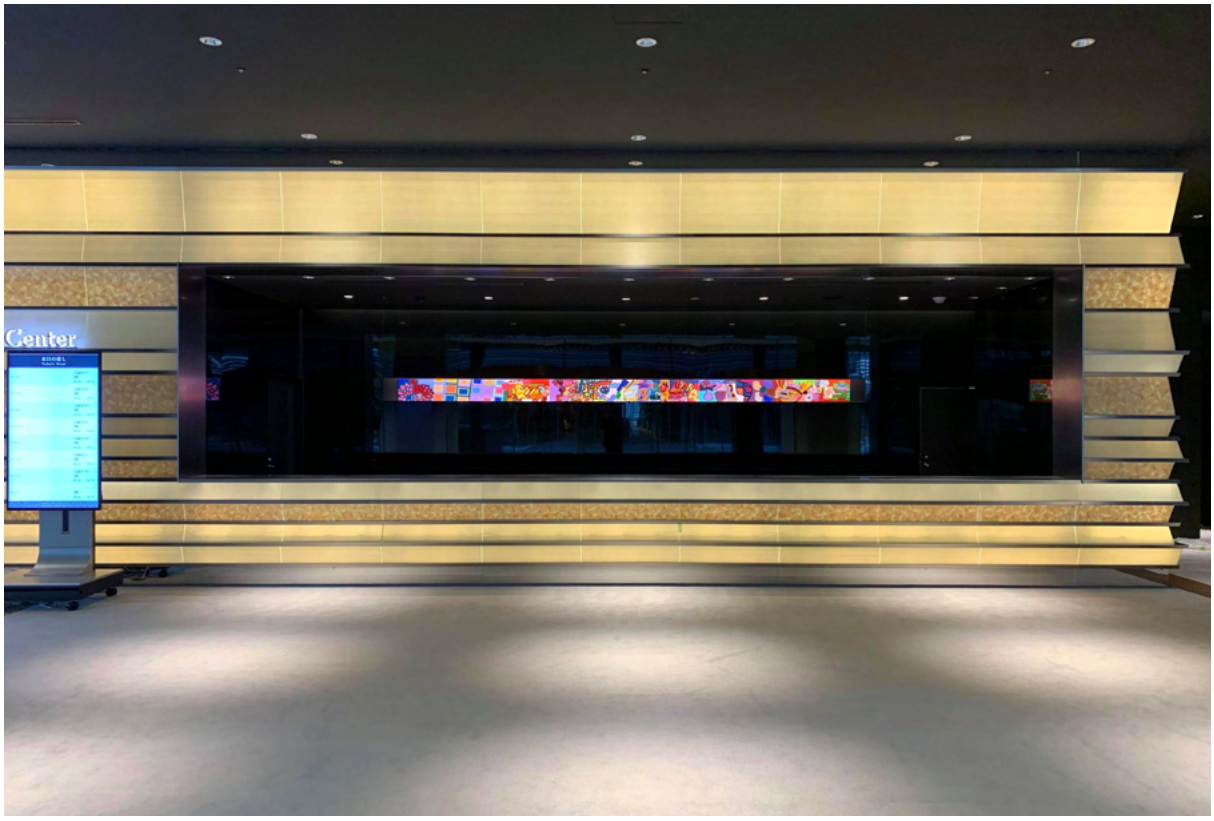
アーティストや芸大と協働したプロジェクト

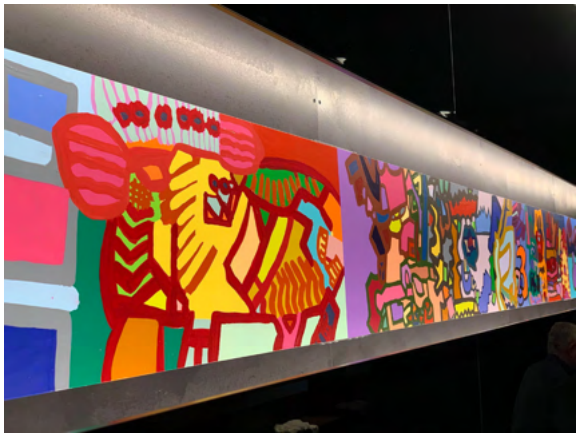
地域で展開するコミュニティプロジェクト

奈良県コンベンションセンター

エントランスホールへのパブリックアート制作

2020年にオープンした奈良県の文化複合っh施設コンベンションセンターに「神撰」(神様への貢物)をテーマに描いた山野将志さんの作品を納品。描き下ろした30cm×6mの大作が、エントランスに永久展示されている。





「奈良の神饌　正倉院の宝物柄　ー 談山神社嘉吉祭　諸鍬神社　荒稲　ウグイ　山口神社　など ー」
素材：アクリル、パネル　　サイズ：300×6000　　制作年：2020 年

｜作品について

奈良県にある神社で行われる祭事にて神様に祀る貢物と、正倉院の宝物をモチーフに描く。人々が集う文化施設の入口に奈良の賑わいと文化を感じさせる作品を描いた。

コンベンションセンターの外観

〈正倉院の宝物〉
金銀花盤　- きんぎんのかばん -

下描き

〈奈良の神撰〉　山口神社 亥の子暴れ祭り「鉢巻飯」

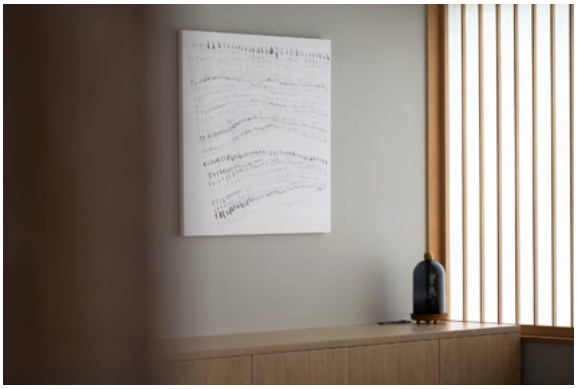
下描き

MIROKU 奈良 by THE SHARE HOTELS
ジュニアスートルーム3部屋へのパブリックアート

2021年に「共生の奈良」をテーマにしたライフスタイルホテルMIROKU奈良 by THE SHARE HOTELS が奈良町にオープン。アートセンターHANA所属作家の澤井玲衣子がが描き下ろした作品3点がジュニアスイートルームに飾られた。越前和紙にピアノの楽譜をテーマに墨で描くいたパブリックアート作品。

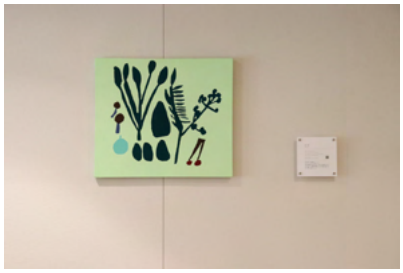
Photo:MARC AND PORTER／提供：株式会社リビタ

「piano note」 素材：墨、越前和紙、パネル／サイズ：870×870／制作年：2021年



大和ハウスグループ

みらい価値共創センター「コトクリエ」へのアートレンタル



2021年に奈良市にオープンした「みらい価値共創センター"コトクリエ"」にてたんぽぽの家の作品が館内アートとして活用される。「コトクリエ」は大和ハウスグループの社員研修や他団体のイベント、地域の人達が活用できる研修施設。たんぽぽの家の作品は、大和ハウスグループの社員が利用する宿泊者専用の6つのリビングルームにて展示された。

かるがも基金
ロート製薬

ロート製薬
関西三拠点へのアートレンタル

ロート製薬の関西三拠点にて、たんぽぽの家の作品を展示するプロジェクト。京都府と三重県の工場、大阪本社にて作品を展示。2020年より、年間約60点の作品をレンタルとして貸し出している。

※かるがも基金：ロート製薬社内有志で行っている社会貢献活動

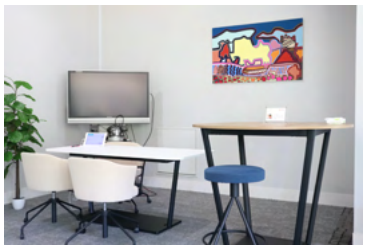
ロート製薬　大阪本社

1Fエントランス

上）5Fエレベーター乗場
下）2Fエレベーター乗場

ロートリサーチビレッジ京都

社員食堂



フリースペース

上野テクノセンター

社員食堂

OPEN KITCHEN

-京都市立芸術大学 × たんぽぽの家-

たんぽぽの家のアーティストと京都市立芸術大学の学生や出身のアーティストがペアを組み、作品を取り交わすプロジェクト。互いのアトリエで制作し、郵送しあって1つの作品を作り上げる。そんな制作方法を「アートラリー」とよび、2016年からペアを変え共同制作を続けている。

主催：京都市立芸術大学
共催：一般財団法人たんぽぽの家、社会福祉法人わたぼうしの会
キュレーション：寺岡波瑠

〈 2020-2021 〉

□共同制作の期間：2020年夏～2021年春

□参加アーティスト

岡村雄介 × 中森碧、小松和子 × 黒川岳、萩原宏一郎 × 平田万葉
平井和樹 × 鮎川奈央子、水田篤紀 × 加納明日香、味波晴巳 × 松岡美里

〈 2021-2022 〉

□共同制作の期間：2021年夏～2022年春

□参加アーティスト

鮎川奈央子 × 山口俊也 × 小学3年生児童、長田恵 × 澤村華 × 渡辺千明
植田梨沙子 × 小学6年生児童 × 前田考美、野儀伊予 × 澤井玲衣子 × 林夫妻
佐々木大空 × 水田篤紀 × 小学6年生児童
ぬかつくるとこ（団体参加）× 森川桜帆 × 安枝知美

共同制作「アートラリー」のルール

①２人１組でペアを組む

②先行後行を決める

③先行の人から作品を制作

※制作はそれぞれのアトリエで行う

④完成したら後行の人に作品を発送

⑤作品を受け取り、それを元に制作を行い、完成したら送り返す

※事前の打ち合わせは行わない

※全く違う媒体で返したり、壊したりしてもOK

※ラリーの回数や制作期間も自由

↑送られてきた作品の梱包をとく様子

〈 ラリー中の作品 〉

OPEN KITCHEN 2018-1019　報告展

ギャラリー崇仁、アートセンター HANA ギャラリー／2019.4.3-5.24

2018-2019 では京都市立芸術大学とたんぽぽの家が所有するギャラリーで報告展を開催。

アートラリーで作った作品に加え、手紙や下書きなどの資料も公開した。　　写真：関人愷

ラリーで作った作品

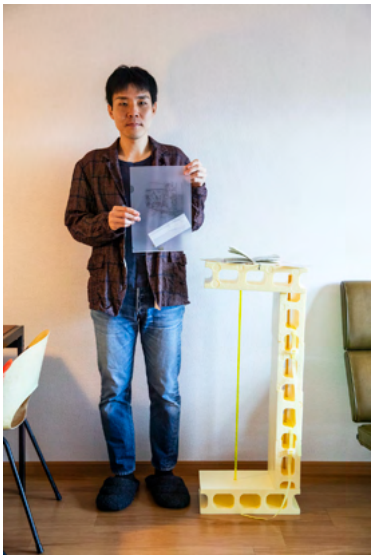
※ギャラリー崇仁での展示風景

OPEN KITCHEN 2020-2021　報告展

京都市内各所／2021.3.14-31

2020-2021 では作家同士の制作に加え、公募で募集した一般市民もアートラリーに参加。展示は参加者の自宅を会場にして開催した。

写真：佐伯慎亮



作品と什器は郵送で送られ、参加者自身で組み立てて展示を行う。

鑑賞者は住んでいる本人や家族がよんだ人だけ。

OPEN KITCHEN 2021-2022　報告展

Books×Coffee Sol.／2022.3.22-29

2021-2022 ではトリオでの共同制作を行う。小学生や他団体の団体参加もあり、展覧会の最終日には初の顔合わせをかねてギャラリーでのトークイベントも行った。

六条山プライベート美術館

〈プロジェクト内容〉

開催時期：2019年より毎年秋頃開催

会場：六条地区各所20～30箇所

（スーパー、クリニック、パン屋、個人宅など）

障害のある人の豊かなアート作品を日常の中で楽しむプロジェクト。展示会場は、たんぽぽの家がある地域のお店や病院、顔なじみの個人宅など。会場と作品のマッチングを行う「お見合い展示」にて、家主自ら、生活にそえたい作品を選び、展示した。

ROKUJO-YAMA
PRIVATE MUSEUM

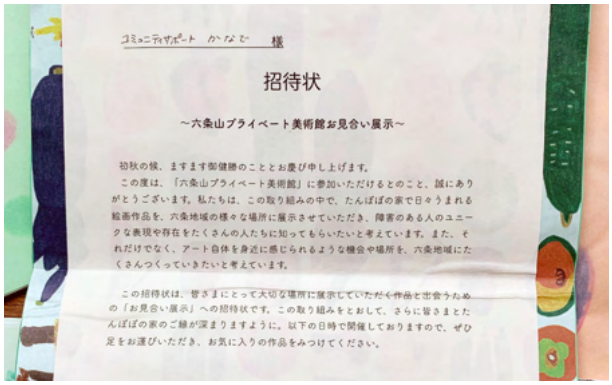
六条山プライベート美術館ができるまでのあゆみ

①スタッフの「アート展示」体験

スタッフ自身がアート作品とともに過ごす日常を体験。改めてアートを暮らしの中に取り入れる意味を考える。

②「六プラ」参加のお誘い

「どうやったら地域でアートを楽しむことができるか」を検討し、スーパーや居酒屋、病院や個人宅に作品を展示することに。会場は全部で１８会場となる。



③作品との出会いの場「お見合い展示」

約１００点の作品の中から、展示会場の家主が自身のお店や生活に添えたい作品を選ぶ。会場には作品を展示したスタッフの想いも紹介。

④「六プラ」開催
六条地域にひろがる作品たち

会場によって展示場所や方法も異なり、そこからは「その人の暮らし」が垣間見えた。

六条山プライベート美術館　　各会場と家主や担当者

チラシにはアクセスや営業時間の表記はせずに、個人宅や病院などはそこに住んだり通ったりする人たちのための展示となった

写真：衣笠名津美

クリニック

福祉事業所

パン屋

福祉事業所

クリニック

個人宅

フォトスタジオ

スーパー

居酒屋

個人宅

展示会場

庄野整形外科
1
「Inspirationシリーズ　No.96」
山村 晃弘

西ノ京高校
2
「蛍」
伊藤 樹里

コープ七条店
3
「なかよしなあらいぐま」
上野 和子

コミュニティスペースかなで
4
「バレンシアの火祭り」スペイン・バレンシア
木村 昭江

市橋
5
「竹の子とはっぱ」
西ノ園 有紀

ミラン
6
「Inspirationシリーズ No.85」
山村 晃弘

おおもりクリニック
7
「アサツキ」
木村 昭江

県立総合医療センター
8
「Inspirationシリーズ No.95」
山村 晃弘

きよ女性クリニック
9
「夏に生まれた女の人、ゆかいな顔シリーズ」
武田 佳子

Kiyo リハビリ PROS
10
「オシャレな人」
十亀 史子

スタジオディンプル
11
「銀のスプーン」
荒井 陸

トゥールブランシュ
12
「ハナマニラ」
山野 将志

六条山カフェ
13
「かえるちゃん」
木村 昭江

有線のすみか
14
「ライムレモン　アカミカン」
青木 優

鑑賞目的での来場OK

鑑賞目的での来場NG

5　水曜日以外の16~17時は鑑賞目的での来場OK

12　有線のすみかの駐車場をご利用ください。

六条山プライベート美術館の楽しみ方

1

作品との偶然の出会いを楽しもう

六条地域の日常の中に溶け込んだ作品たち。本展は地域に住んでいる方々に楽しんでいただくことが目的です。作品を鑑賞するためだけではなく、その日訪れた先にたまたまあった作品との出会いを楽しんでくだされればと思います。
展示に関心を持たれた方は、12月3日（火）より「アートセンター HANAギャラリー」（たんぽぽの家内）で行われる「報告展 ～想起の窓～」へぜひ足をお運びください。

2

作品の背景を想像してみよう

展示している作品は会場となっているオーナーさんや担当者の方々が選んだものです。「お見合い展示」と題したイベントを10月に開き、6人のスタッフが展示場所に合う約100点の絵画を用意し、その中から選んでいただきました。そんな様々な人の手をとおして、いま目の前にある作品たち。ぜひその背景を想像しながら作品を楽しんでみてください。

3

マナーは守りましょう

本展はみなさまのご厚意とご協力で成り立っています。これからも地域との関係を大切にしていきたいからこそ、マナーを守ってご鑑賞いただくようお願いいたします。左ページにある来場NGと記載のある会場へは行かないよう、ご協力をお願い致します。

※会場には掲載作品以外にも複数作品が展示されています。　※上記会場に加え、個人宅などにもご協力いただいています。

フライヤーには記載可能な会場と鑑賞方法などを載せる

参加プロジェクト

「SOU　-JR 総持寺駅アートプロジェクト -」

駅の校内に様々なアーティストが作った作品を拡大プリントし、１年間の展示を行う

「ART GUSH　IZUMI CITY」

関西所縁のクリエイター 30 組が和泉のまちにパブリックアートを作るプロジェクトに参加

「いのちの森プロジェクト@Livedo コーポレーション愛媛新居浜工場」

いのちの森をテーマに医療キットをつくる工場に 4m を超える壁画を 5 点を描き下ろす

「24 時間こたつラヂヲ ーひねって またいで 音楽でー」

開かれた福祉をつくることを目的に、24 時間施設を開き、様々な WS や講座を行う

専用応募はがき
47都道府県のうまい
キリンのビールが当た
選ぼう ニッポンのうまい!
プレゼント
103-8
東京都中央区
日本橋郵便局私
ぶらっとBagプレゼント
Café Au Lait
POKKA COFFEE
AND BOTTLED
TORY LTD.
TOKYO, JAPAN
BLEND
Coffee
Dark Roasted
500ml

| コーディネート　- coordination

他施設の障害のあるアーティストを
取り扱った企画展

「アートをしたい」施設へ出向いた
プログラムのコーディネート

PATH OF ART

ー表出から表現へー

「あいサポート・アートセンター」より、他施設の障害のあるアーテイストも含めた企画展の依頼。鳥取県、愛知県、京都府、奈良県の作家を紹介する展覧会を4会場で開催する。

主催：鳥取県、あいサポート・アートセンター

企画：一般社団法人アートスペースからふる

社会福祉法人わたぼうしの会たんぽぽの家アートセンターHANA

協力：NPO法人くるくる、社会福祉法人さふらん会さふらん生活園

社会福祉法人みずなぎ学園みずなぎ鹿原学園

PATH OF ART

- 表出から表現へ -

〈 コンセプト 〉

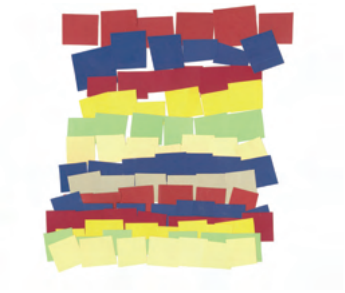
好きで続けていたことが作品とよばれたり、線を重ねた色彩が絵画として見られたり、自身の想いを綴ったものが別の誰かの心に響いたり ...。福祉の現場の中では、ただの個人の習慣を超えた豊かな営みが日々生まれ続けています。そんな毎日の出来事を“展覧会”という場所で見せるということは、どういう意味をもつのでしょうか。

本展では、生活と表現が密接に結びついた６人の営みを公開し、“作品”とよばれている個人の行為について考えます。「生まれること」と「生み出すこと」、「見られること」と「見せること」。表出と表現が入り混じる、豊かな世界をお楽しみください。

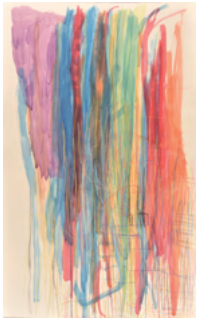
〈 出展作家 〉

「アイロンビーズ」
花井聡香
（くるくる／愛知）

「コピー」
井口直人
（さふらん生活園／愛知）



「シリーズ・工作」
澤田拓磨
（アートスペースからふる／鳥取）



「Asuka Piano（あすかとピアノ）」
澤井玲衣子
（アートセンター HANA ／奈良）

「おしゃれな女の子」
富丸風香
（アートセンター HANA ／奈良）

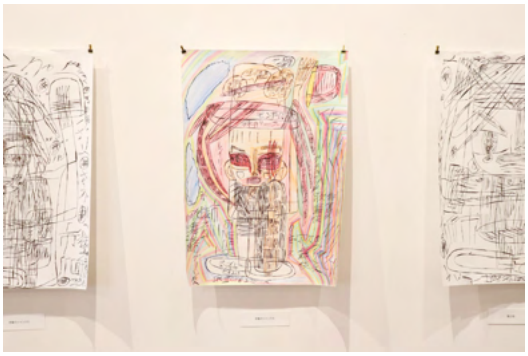
無題
美濃射彩子
（みずなぎ鹿原学園／京都）

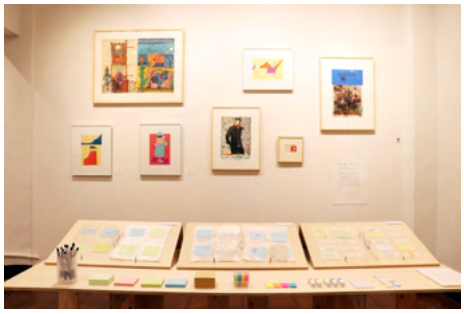
鳥取会場

ギャラリーからふる

「コピー」制作動画

※自身でプリンターの設定を変え、色を調整し、顔を押し付けコピーをする





鳥取会場

鳥たちのいえギャラリー

「アイロンビーズ」制作動画

モチーフにもなっている習いごとのピアノの練習風景

倉吉会場

くらよしアートミュージアム無心

来場者の落書き

富丸の落書き

出展作家の富丸はスタッフの背中に落書きを貼って遊んでいる。本展ではそのスタッフの等身大パネルを設置し、彼女のコミュニケーションを追体験するWSを開催。

〈 ギャラリートーク 〉

展示作品の解説

作品のモチーフになっているピアノを
出展作家の澤井が自ら演奏

アートプログラム
コンサルティング

愛知県にあるNPO法人くるくるが立ち上げるアートプログラムのコーディネートを、約1年にわたり行なった事業。月に1度くるくるへ訪問し、1年の活動をまとめた報告展も開催した。

主催：NPO法人くるくる

共催：社会福祉法人わたぼうしの会たんぽぽの家アートセンターHANA

協力：一般財団法人たんぽぽの家

事業内容

〈 事業所 〉

NPO法人くるくる　刈谷大正センター（生活介護事業所）

〈 目標 〉

①アート活動を通して、利用者自身が自分で関心のあることや感じていることを表現できるようになり、他者との関わりがより活発になる環境をつくる。

②普段とは違う視点で利用者を見つめ、新たな側面を発見できる機会にする。

〈 期間 〉2018年12月～2019年12月　※プレ研修：2018年11月

A）アートプログラムに関する研修業務／ 2018年12月～7月（7回）

・アートプログラムに関する基本的な知識や技術を学ぶ

・障害者アートの様々な事例、全国的な動向を知る

B）成果報告展業務／ 2019年8月～12月（3回）

・利用者が作品を発表することで、自身の表現を見てもらう喜びを知る

・発表を通じて、利用者の生み出す表現の理解を深める

・展示に関する基本的な知識や技術を学ぶ

※報告展「表現の気づき - さぐる くみとる またさぐる -」

会期：2019年12月5日（木）～12月20日（金）

会場：NPO法人刈谷新栄センター 4階

A） アート研修の風景

B） 報告展展示風景

コンサルティングのはじまり

○ 背景

アートプログラムの立ち上げを行なった、「NPO 法人くるくる 刈谷大正センター」（生活介護）では、公園の掃除や機会部品の仕分け作業などを行なっている。やりがいのある仕事は充実している一方で、自分の好きなことを育む機会をつくりたいと考えていた。

○ NPO 法人くるくる

「誰もが自分らしく暮らせる社会を創り、よりよい未来を切り拓く」という理念のもと、設立して 15 年。年齢や障害の程度にかかわらず、切れ目なくサポートする支援システムの土台を作り上げる。愛知県刈谷市を中心に 6 拠点、職員数 110 名、複数の福祉サービスを提供。

＊生活介護、ホームヘルプ、グループホーム、放課後等デイサービス、就労移行支援、就労継続支援 B 型、就労定着支援、自立訓練、障害者就業・生活支援センター

アートコンサルティングの内容

アートプログラムに関する研修業務／ 2018 年 12 月～7 月（7 回） ※プレ研修：11 月

⓪プレ研修）アート体験「模写 WS」

たんぽぽの家でアート活動を行うメンバーの紹介と、展覧会やアートプロジェクトの事例を報告。また、スタッフ自身にアートを体験してもらうため、たんぽぽの家のメンバーの作品を模写するワークショップを行う。

①アンケートによる聞き取り

各スタッフにアートプログラムに期待することをアンケートで聞きとり、プログラムの内容を組み立てていく。

②画材や素材、環境の整備

くるくるの利用者に対して、興味・関心がありそうな素材を提供。机の配置や画材のアドバイスを行い、アトリエの環境を整える。

③たんぽぽの家のメンバーの公開制作

たんぽぽの家のメンバーがくるくるに訪問し、他の利用者の中に交じって公開制作を行う。

④たんぽぽの家でのアトリエ実習

くるくるのスタッフと利用者がたんぽぽの家のアトリエで、メンバーとともに活動を行う。

⑤愛知県内、関西圏内にある施設の見学

・やまなみ工房／滋賀
・ないろサーカス／奈良
・Good Job! センター香芝／奈良
・ヨナワールド／愛知
・ポパイ／愛知

⑥「しえんかいぎ WS」

アートプログラムで活動する利用者の支援内容やプログラムの目的を、ワークショップ形式で考える「しえんかいぎ WS」を開催。

⑦くるくるのスタッフによる振り返り

くるくるのスタッフから今までの研修の報告発表行う。現場の変化を振り返り、今後の目標をスタッフ全体で共有する機会をつくる。

成果報告展業務／2019年8月～12月（3回）

①展示にむけた話し合い

展示の目的、時期、会場、今後のスケジュールなどを話しあう。また、くるくるの利用とともに「あいちトリエンナーレ」を鑑賞。初めて美術館へ行く利用者もいて、新しい体験となった。

②ワークショップの実践レクチャー

くるくるの利用者・大蔵直裕さんの出展作品をともにつくる「大蔵賞 WS」がスタート。

③展覧会名の決定、展示準備

報告展のタイトルが「表現の気づき - さぐる・くみとる・またさぐる -」に決定。この数ヶ月を通じて改めて気づいた利用者の表現と、利用者に向けるスタッフの視点を紹介する企画内容にする。

④報告展「表現の気づき」

展覧会の搬入をくるくるのスタッフとともに行い、展示方法や道具の使い方などを伝える。また、この1年間のアートプログラムの活動と、展示している作品を紹介するギャラリートークも行った。

報告展「表現の気づき - さぐる くみとる またさぐる -」

NPO法人刈谷新栄センター４階

2019.12.5 - 20

くるくるのアートプログラムは絵を描くことを目的にせず、「その人の表現を育むこと」を目的とした。報告展ではくるくるの利用者の「好きなことや得意なこと＝表現」を、スタッフが書いた紹介文とともに展示する。

展示風景

「大蔵賞 WS」

大蔵さんが気になるものを探すワークショップ。その日に大蔵さんが最も触ったモノにポイントをつけ、一番票が集まったモノを選んだ人に大蔵賞を与える。

くるくるのスタッフが書いた作品紹介とともに展示

会期中には出展作家が不定期に登場

黒のパンプスが好きな人は靴を展示

細密に貼られた貼り絵

パフォーマンス

ワークショップ

講演

公開制作

HANAPLAY

日常の体験談をもとに様々なシーンをつくる、たんぽぽの家の演劇プログラムの作品。学校時代の出来事や恋愛話、突然他界したメンバーのことなど、参加者それぞれの記憶を重ねた物語を、演劇作品として発表する。

| コモンズフェスタ2020での公演「僕が生まれた日」（主催：應典院寺町倶楽部） |

｜オンライン劇場「THEATRE for ALL」にて演劇作品を上映｜

｜日韓共同プロジェクト リーディング公演「とある村」｜
（韓国芸術総合学校教授／鳥の劇場）

写真：草本利枝

HANA PLAY × 近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻生
ワークインプログレス　公演
｜HANA PLAY Vol.5『贅沢な時間』｜

舞台美術：池上恵一／映像撮影：LES CONTE
監修：矢内原美邦（近畿大学文芸学部教授、振付師・劇作家・演出家・ダンサー）
協力：近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻、一般財団法人ニブロール、一般財団法人たんぽぽの家

| 2016年：成果発表@京都芸術センター |

状況のアーキテクチャー
Tracing Voices: ラップ × ケア × アート

Shing02（音楽家 / ヒップホップMC）
倉智敬子 + 高橋悟（美術家）

2016〜2017年にかけて行われた協働プロジェクト。「生きたコトバ」をテーマに声や音を使ったWSを行う。異なる感性、思考、リズムを持つ人達による「新しいコミュニケーション」の実験の記録と、その成果をライブ形式で発表した。

主催：公立大学法人 京都市立芸術大学

2017年：
成果発表@京都市立芸術大学
（アートミーツケア学会にて）

→川尾朋子のパフォーマンス

→即興音楽が会場に響きわたる

ブラッシュ・アートWS

川尾朋子（書家）

文字や墨の表現でダイナミックな作品を作るWS。障害者、学生、子ども、大人,,,様々な人がWSを通して自由に交流する。

缶バッチ WS

障害のある人のアート作品を

テーマにした交流 WS

インモール、ドトールコーヒー、阪急百貨店、様々なアートイベントにて開催。

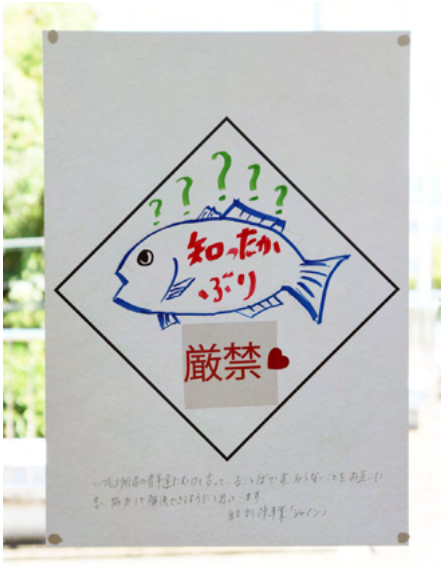
作家本人も参加者と一緒に制作

染め手ぬぐい作り

○△□で掛け軸を作ろう

アート作品ぬり絵「どうぶつスタジオ」

アート作品ぬり絵「HYOUSHIKI 工房」



標識をつくるメンバーの創作を参加者で追体験する

WSのテーマになった作品をつくる
メンバーの公開制作

和歌山県障害者芸術文化活動
普及支援事業人材育成研修

障害のある人を支援する団体や個人を対象とした研修にて、たんぽぽの家の活動報告と、アートを学ぶWSを開催。研修のあいだは公開制作も行われた。

「公開制作」

てんかん学会の作品展示会場にて

作品を展示している会場にて出展作家の公開制作を行う。